

また「コロナ死亡者数」について、厚労省から各都道府県に対して「厳密な死因を問わず、死亡時にPCR陽性であればコロナ死として計上するように」との指示が出されている、ということも知りました。

「え…ということは、事故死でも持病で亡くなっても、PCR検査で陽性ならコロナ死になるってということ？ でもPCR陽性者って、もともとコロナ感染者じゃないんだよね？なのに、コロナで死んでなくても陽性ならコロナ死って、どういうこと…」

調べれば調べるほど、理解できないことが出てきました。その中でも驚いたと同時に「ああ…そういうことか」と様々な疑問に対して、腑に落ちた事があります。

パンデミック宣言をして、世界各国の政府にワクチン接種を含む感染症対策を指示しているのはWHO（世界保健機関）ですが、そのWHOに世界最大の資金提供を行なっている、ある民間財団があります。その民間財団は、ファイザー社をはじめとする16社のワクチン製薬会社のスポンサーでもあります。そして製薬会社は、各国メディアに影響を与える大手スポンサーです。

このお金の流れと、感染症対策の指示や情報の流れを見て、どう感じますか？

新型コロナワクチンは遺伝子操作の新技术を用いた未知のものであり、接種後にこれほど短期間でこんなにも多くの死者が出たワクチンは、未だかつてありません。

このワクチンを各国の政府が（税金で）購入し、購入の際には「ワクチンを打った人々に何が起こったとしても製薬会社は一切責任を問われない」という免責の契約を結んでいます。そして日本政府は「ワクチン接種によって死亡した場合には、国が4,420万円の救済金を（税金で）遺族に支払う」と約束しました。

世界中で既に数多くの方がワクチン接種後に亡くなっていますが、日本でも報告されているだけでも1,357人おられます。（厚生労働省2021年11月12日発表）

しかし、亡くなった全ての方々が「ワクチン接種との因果関係は不明」とされ未だ誰一人として救済を受けられていない状況です。（接種会場で死亡した方も含む）

また、副反応で報告のあがった方は28,511人おられ、その内、重篤な症状とされる方は5,621人にもものぼります。（厚生労働省2021年11月12日発表）